

未成線の今福線が動き始める時

伊藤 清治

1. はじめに

今福線研究分科会は、今年度で5年目（22～26年度）の活動となります。今年度は昨年度作成した“今福線マップ”をより良いものにすることを目的として再度現地踏査を実施した。この今福線マップは（一般社団法人）中国建設弘済会の「中国地方地域づくり等助成制度」の助成金を受け完成したものであり、マップ構成は、全体図1枚と詳細箇所3枚の4枚構成で作成されていますが、まだ発展途上のものである。

今回、再度現地踏査を実施し新しい情報や写真等を追加・更新することでより良い“今福線マップ”の作成を目指し、鉄道遺構の有効活用等について活動したものである。またにわかに動き始めた今福線の活用策についても報告します。

2. 今年度の活動概要

今年度(26年度)の現地活動は次のとおりです。

11月15日（土）

AM… シンポジウムに向けて：実行委員会の内容や現地整備の報告等、新聞（「山陰中央新報」）への連載（H27年1月～）について 等の話し合い。

PM… 現地確認：主となる観光スポット候補地の再調査、今福第1トンネル反対側坑口や下府橋梁跡

宿泊：ホテル川隅（旭温泉）…懇親会（意見交換等）

11月16日（日）

AM… 丸原地区（旭町）の現地調査（橋梁・トンネル）～PM… 解散

3. 現地踏査結果

今福線研究分科会は毎回現地踏査を行っており、そのたびに新しい発見があります。今回も次のような新しい発見がありました。

ひとつは、今福第五トンネル付近の下府川の河床に、橋脚の一部が確認できたことです。一見河床に露頭している岩盤かと思われていたものが、橋脚の痕跡であったのです。その場所からは折れ曲がった鉄筋が数本確認され、不均一な鉄筋の露出から人工的に取壊されたのではなく、河川の濁流等によって運搬された転石や玉石等の巨岩（周辺の河床にも確認できる）によって破壊されたものではないかと考えられます。

もうひとつは、下府駅付近の下府橋梁及びその前後の軌道敷きの構造です。市道改良工事に伴う橋梁撤去により橋梁構造が明らかになり、予想以上に貧弱な構造であったこと、さらに軌道敷きの路体の土質に驚かされました。路体の主要部分がほぼ均一な砂であり、土羽部分の30cm程度の粘性土で覆土され構築されていたことです。私の認識している範囲では、砂のみによる盛土では安定性が不十分と考えていました。と

ころが 30cm 程度の粘性土によって砂が拘束され十分な安定が保たれていたことです。30cm 程度の粘性土にこれほどの効果があったことには驚かされ、認識を改めました。

【今福第五トンネル南側方面の下府川の河床】



下府川の河床に確認出来る橋脚跡(赤丸)

橋脚跡から露出した鉄筋が確認できる



下府川の河床に確認出来る橋脚跡(拡大)

橋脚跡から露出した鉄筋確認できる

【今福第五トンネル北側方面の下府川の河床】



下府川の河床に確認出来る橋脚跡(赤丸)

橋脚跡から露出した鉄筋が確認できる



下府川の河床に確認出来る橋脚跡(拡大)

橋脚跡から露出した鉄筋が確認できる

【下府駅付近の下府橋梁の撤去状況】



下府橋梁背後の軌道敷き路体(赤丸)

土質は比較的均一な砂



下府橋梁背後の軌道敷き路体(拡大)

比較的均一な砂で構築されている

4. 動き始めた今福線

今年度、本今福線研究分科会と行政（主として浜田市）並びに地元関係者とが連携し、今福線の活用策等について新たな動きがあり、今福線研究分科会の活動が大きく動き始めています。その内容としては次のとおりです。

①シンポジウムの開催

浜田市の久保田市長が、今福線研究分科会の活動及び今福線マップ等に注目し、観光資源としての今福線の価値に目をつけ、今年8月に島根県立大学を主会場として「広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム」が開催される予定です。

従来行政は動きが遅いと感じていましたが、浜田市の職員の方々は久保田市長の下、地域に埋もれた資源や財産等の発掘に意欲的に取り組んでおられ、非常に驚いている状況です。

本今福線研究分科会もシンポジウムに参加する予定ですが、技術士会として技術的な観点からの助言や提案等が出来れば良いと考えています。

②新聞「山陰中央新報」への連載

本今福線研究分科会のメンバーである盆子原氏の日頃の活動の関係から、平成27年1月～8月にかけて、月2回程度、合計17回の新聞「山陰中央新報」への連載が決定しています。

連載スケジュールの詳細は未定な所も多い状況ですが、本今福線研究分科会や産官学及び地元関係者等が寄稿する予定となっています。

このように、今年度になってにわかに今福線への関心が高まってきている状況です。

5. 今後の課題並びにその対応策

今後の課題等としては、次のようなことが考えられます。

シンポジウムの開催や新聞への連載で、今福線の認知度がアップすることは間違いなく、今福線の鉄道遺構を見ようとする人たちが多数押し寄せることが予想されます。現実に旅行会社や地元住民による観光ツアー等が企画されているとのこと。

しかしながら、現状では老朽化した遺構の安全性の確保、駐車場やトイレ等の整備が十分ではありません。

前年度において私は次のような課題を挙げていました。

- 1) 今福線マップの改善や更新
- 2) 今福線マップの有効活用及び展開
- 3) 地域への負担軽減及び安全確保
- 4) モデル区間の提案

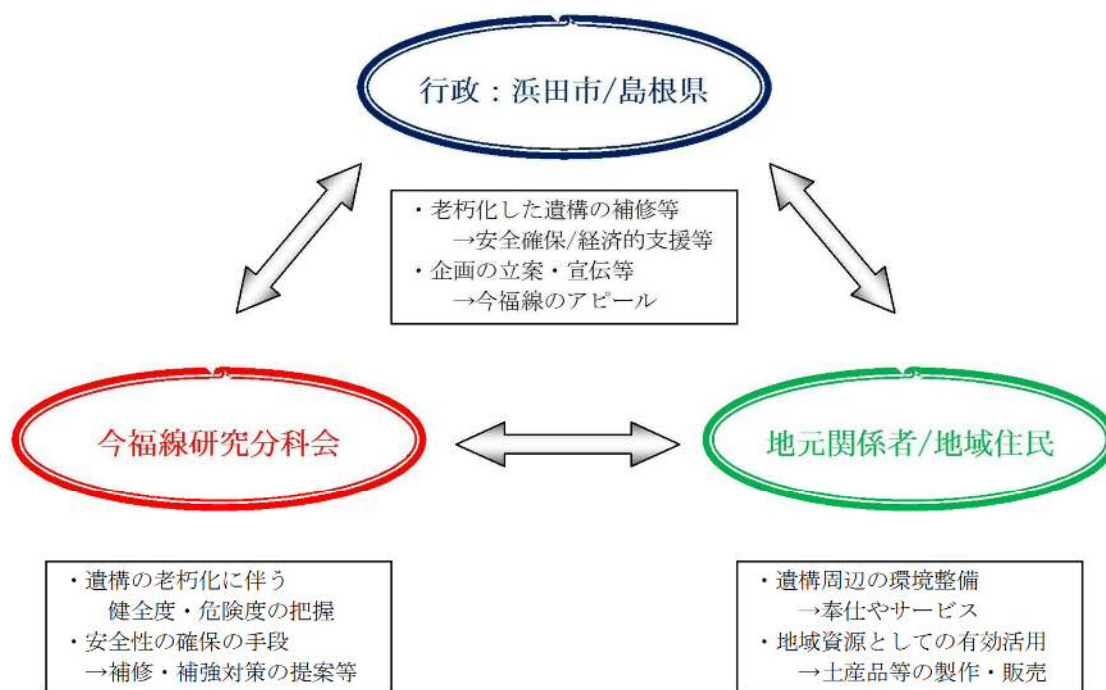
このうち、1), 2), 4)については本今福線研究分科会も含め少しずつではありますが課題を解消するための取り組みが進行中と考えます。しかし、3)については時間と経

費がかかるため、一朝一夕にはいきません。

このような状況から、今後は行政や地元関係者・地域住民が一体となって活用策等の取り組みを行っておかなければいかなければならないと考えます。

そこには本今福線研究分科会もかかわっていかなければならないと感じており、下記のような連携が必要ではないかと考えます。

鉄道遺構の今福線の活用策



6. おわりに

今年度にわかに今福線が動き始め出した。

昨年完成した今福線マップの存在をPRすることによって、鉄道遺構である今福線の知名度が少しずつアップし、地域資源として十分活用できる状況が整いつつあるように思える。未成線として山間にひっそりと埋もれていた今福線が、本今福線研究分科会の思いと地域の方々及び行政を巻き込み、観光資源等として動き始めたように感じます。

今後、新しい情報や写真等を追加・更新することでより良い“今福線マップ”を作成するとともに、鉄道遺構の安全性の確保の手段や提案等を行い、今福線の有効活用につながれば良いと考えています。

—以上—